

# ダム直下に明瞭な活断層

県営浅川ダムは、調査開始から35年、付替え道路など周辺工事着工から20年余りたった今も完成していません。これはダム建設に対しての、県民の納得が得られていないからではないでしょうか。

これまでの粘り強い住民運動や裁判闘争、専門家による研究や議会での論戦により、県が主張してきたダムの必要性そのものが失われようとしています。(詳細は裏面)

ダムの安全性についても、かねてから指摘されてきた活断層の存在が、いよいよ明らかになってきました。

近年、日本全体が地震の活動期に入り、活断層が動きやすくなっています。断層帯の真上に巨大なダムをつくることは、原発事故の「安全神話」の教訓からも許されません。

## 浅川ダム建設は、直ちに中止すべき

今年1月、県と長野地裁に提出された「小坂・松島意見書」による「F-V断層は活断層である」との結論の論拠を掲載します。

### 1 次の2つの条件を備えていれば「活断層」です。(活断層研究会)

- ①最近(一般的には12.6万年前以降を指す)繰り返し動いたことが確かである。
- ②今後も動く可能性がある。

### 2 F-V断層に関しては、以下のことが明らかです。

- ①裾花凝灰岩層中のF-V断層直上のA、B層がずれたり変形したりしている。(写真参照) また、礫が集積し盛り上がり、砂が流動化している。礫層の礫が断層面にもみ込まれている。
- ②年代測定結果では、断層直上の堆積物は約12,800～2,000年前までの間の堆積なので、F-V断層はこの間に繰り返し活動した断層である。
- ③その特徴から見て、F-V断層はA級とされる長野盆地西縁断層に属する活断層であり、今後も動く可能性が高い。

### 3 F-V断層は明らかに「活断層」です。活動した場合、ずれは1mを超える可能性があり、ダムの安全性には何らの保障もありません。



## ダムサイトにF-V断層現れる

浅川ダムの掘削工事中に、ダム敷を縦断するF-V断層が60mにわたり露出しました。

「ダム工事を中断して断層調査をすべき」との多数の県民の声に押された県は、昨年10月公開調査を行いました。

県の依頼した産業技術総合研究所の調査員は、半日の現地調査で「活断層ではない」との報告を行いました。追加調査を指示し、最終報告は未だにまとまっていません。

### F-V断層は活断層

一方、現地での詳しい調査を何回も行っている信大名誉教授の小坂共栄氏と日本地質学会名誉会員の松島信幸氏は、上記の報告に反論し、「ダム建設は直ちに中止すべき」との意見書を県に提出しました。

- F-V断層は明らかに活断層であり、活断層としての危険度はかなり高い。
- この地帯は何回も地震が起きている場所であり、活断層の真上にあるダムの安全性の保証はない。

県は、安全確認のための追加調査を続けていますが、結果についての県民説明会を開けないままです。

共産党県議団は、「県の依頼した専門家を現地に呼んで、公開の場で、見解の異なる双方の立場から説明を行うべき」と県議会で質しました。



赤線がF-V断層 ダムサイトの直下を走る

### 2月県議会で ダム予算に反対の修正案提出

浅川ダム予算は毎年多額の繰越を行っていて、2011年度は12億円以上を繰越します。(予算執行率は3.6%) 共産党県議団は、この状況での新たな予算計上は認められないとして、2012年度の一般会計予算(18億円)に対し、修正案を提出しました。

### 日本共産党県議会報告

2012年3月号外

発行/日本共産党長野県議団  
〒380-8570 長野市南長野幅下 692-2  
長野県議会日本共産党控室  
TEL 026-237-6266 (直通)  
FAX 026-237-6322  
ホームページ <http://www.avis.ne.jp/up/>  
E-mail [jcpngnkd@avis.ne.jp](mailto:jcpngnkd@avis.ne.jp)

# 浅川ダムは、必要性がない

## 県民の粘り強い運動で明らかに

県の浅川ダム建設目的が、次々と変わってきました。

当初は、水道水への取水を含む多目的ダムでしたが、治水専用ダム(内水と外水被害対策用)となり、そして今は外水対策を目的としています。

今の浅川に、ダムは本当に必要なのでしょうか。

### 「浅川ダムは内水対策にならない」と県が認める

内水災害は、浅川の水が千曲川に流下できないために起こる災害であり、県は「ダムの建設によって被害を防ぐことができる」と説明してきました。ところが阿部知事は、2010年12月の住民説明会で「浅川ダムは内水対策の役に立たない」として、下流の皆さんには誤解を与えたと陳謝しました。

浅川ダム裁判においても県は「ダムは内水氾濫とは関連性のないもの」「外水氾濫の浸水被害を防止することを主たる目的に計画された」との主張に転じました。

これには信毎も「県の説明が方便だったことになる」と指摘しました。



住民の皆さんと県に内水対策を申入れ

東日本大震災と原発事故による放射能汚染は、経済開発優先の日本の在り方を根本から考え直す機会になりました。

長野県民の英知で、今年こそ必要のない危険な浅川ダム建設を止めさせましょう。

### 浅川ダム建設の経過

- 1976年 ダム計画決定
- 1986年 地附山の地滑り災害発生
- 2000. 9月 本体工事契約
- 2001. 2月 田中知事が脱ダム宣言
- 2003. 8月 浅川流域協議会発足
- 2007. 2月 村井知事穴あきダム建設を表明
- 2009. 12月 住民監査請求提出 (3461人)
- 2010. 3月 本体工事着工
- 2010. 3月 公金支出差止め住民訴訟 (417人)
- 2010. 11月 阿部知事建設継続表明
- 2011. 8月 工事中ダムサイトにF V断層露出
- 2011. 8月 長野地裁がF V断層など証拠保全
- 2011. 9月 県が安全性再確認のため調査開始
- 2011. 10月 県が依頼した専門家の現地調査
- 2012. 1月 小坂松島意見書提出

### 外水氾濫は本当に起こるのか？

#### ■天井川の解消で大きく改善

外水氾濫とは、堤防が切れたり堤防を乗り越えたりして水が溢れることですが、現在の浅川で、外水氾濫が起きるのでしょうか？

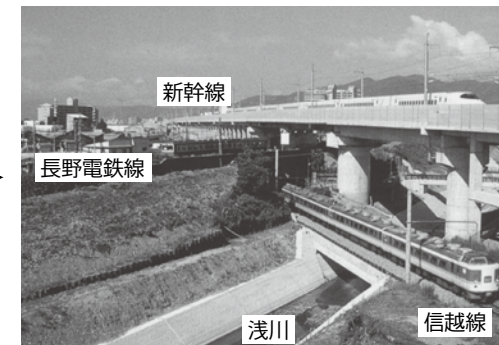
外水対策の要である浅川天井川解消は、河川改修で大きく改善されました。線路の上や屋根より高い水路を流れていた浅川が、最大11mも河床が下がり、上中流域での外水氾濫の危険は大きく改善されています。

#### 改修前の浅川



浅川が信越線の上を流れていた

#### 改修後の浅川

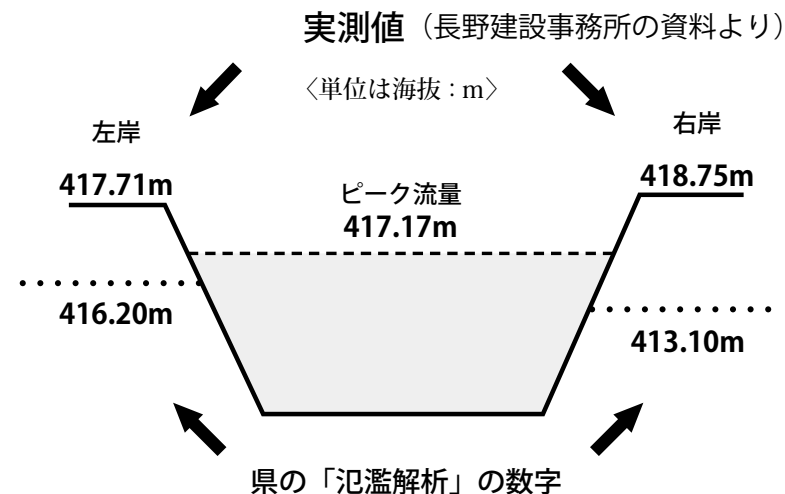


浅川の川底は最高で11m下がった

#### ■県の氾濫解析は被害を過大に試算

県は「天井川の解消だけでは、浅川は各所で破堤氾濫する」として、裁判資料に「氾濫解析」を提出しました。ところがこの「氾濫解析」は、河

川改修以前の図面や、実測と異なる数字で計算されていました。



左図は「氾濫解析」で一番大きな氾濫がおきるとされている千曲川との合流点から11.8km地点です。

現況では  
氾濫は  
起きません。

日本共産党県議団は、引き続き県民の皆さんと力を合わせてがんばります。